Ⅲ　競技スポーツ

1　競技スポーツの概要と本県の取組

競技スポーツは，より速く，より高く，より強く，より美しくを目標とするスポーツである。勝つことや記録に挑戦するために「技と力」を磨き，能力の極限に立ち向かう活動であり，新たなスポーツ文化の創造・発展に多大な貢献をしている。

国民体育大会等の各種大会での本県選手の活躍は,県民に明るさと活力を与え,本県スポーツの振興に大きく寄与している。このため，本県では、優れた能力を持つジュニア選手の発掘・育成・強化、指導者の養成、スポーツ医・科学の活用等により、高い競技力を持つ選手の育成に取り組むとともに、千葉県民体育大会の開催、各種スポーツ大会の後援，スポーツ団体の育成等をとおして、本県競技力の恒常的な維持・発展に努めている。

こうした中、平成17年の全国高等学校総合体育大会「2005千葉きらめき総体」,平成22年の第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」に向け、本県選手が優秀な成績をおさめることができるよう、選手強化の中核的組織として，平成14年3月に千葉県競技力向上推進本部を設立し、関係団体と連携を図りながら長期的・計画的な取り組みを推進した。

その結果、「2005千葉きらめき総体」では過去最高の入賞数を獲得、「ゆめ半島千葉国体」では、天皇杯・皇后杯獲得による完全優勝を達成し、選手と地域が一体となって「日本一」を味わい、県民に大きな感動を与えるとともに、この国体の成功を背景に、「千葉県体育・スポー振興条例」が制定されるなど、スポーツ振興の総合的かつ計画的な施策も推進された。

これらの成果を一過性に終わらせることなく、しっかり引き継いで県民の活力・県勢の発展につなげるため、国体で培われた土壌を活かし、さらに県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、国民体育大会の上位入賞と未来のアスリートの発掘・育成・強化に努め人々に感動を与える競技力の向上に取り組んでいく。

2　スポーツ大会の開催

（1）県民体育大会の開催

県民体育大会は，昭和23年度から64回の歴史を有し，広く県民の間にスポーツを普及し県民の健康増進と体力の向上を図り，県民生活を明るく豊かにすることを趣旨に開催されている。大会には県体育協会加盟33郡市体育協会から約10,000人余が参加し，地域の代表が力と技を競う，本県最大の競技スポーツの祭典として県民に親しまれている。平成元年度から平成14年度までは，県内５地域を巡回、平成15年度からは全国高校総体及び国民体育大会の会場地で開催することとなった。平成17年度は高校総体、平成21年度・22年度は国民体育大会のため休止したが、平成23年度第61回夏季・秋季大会から再開される。なお、再開に当たり，大会規模の見直しや，受益者負担や広告協賛など，新たな大会運営を導入している。

県民体育大会男子・女子成績

開催年度	19	20	23	24	25	26
回　数	59	60	61	62	63	64
男子優勝	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉
女子優勝	千葉	千葉	千葉	市川	千葉	千葉

県民体育大会 男女総合成績

開催年度	19	20	23	24	25	26
回 数	59	60	61	62	63	64
1 位	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉
2 位	船橋	柏	船橋	松戸	松戸	船橋
3 位	松戸	松戸	柏	市川	船橋	松戸

競 技 別 成 績（男子）

性別	競技	開催年度	19	20	23	24	25	26
		回　数	59	60	61	62	63	64
男子	スキー		千　葉	千　葉	柏	柏	野　田	柏
	スケート		松　戸	千　葉	船　橋	市　川	千　葉	千　葉
	水泳		千　葉	千　葉	市　川	市　川	千　葉	千　葉
	ヨット		鴨　川	館　山	船　橋	館　山	浦　安	千　葉
	ボート		香　取	香　取	香　取	香　取	香　取	香　取
	陸上競技		船　橋	船　橋	千　葉	印旛郡市	千　葉	千　葉
	バレーボール		柏	千　葉	山武郡市	千　葉	君　津	松　戸
	クレー射撃		千　葉	印旛郡市	印旛郡市		印旛郡市	千　葉
	体操		香　取	香　取	船橋・習志野	香取	香　取	千　葉
	相撲		市　原	木更津	木更津	木更津	木更津	木更津
	テニス		流　山	千　葉	松　戸	松　戸	印旛郡・松戸・船橋・千葉	印旛郡市
	軟式野球		市川・成田	柏	市　川	市　川	浦安・袖ヶ浦・茂原・香取	茂　原
	卓球		船　橋	千　葉	千　葉	松　戸	千　葉	松　戸
	弓道		船　橋	南房総市 安房郡	松　戸	千　葉	千　葉	千　葉
	ソフトボール		船橋・市原 柏・印旛郡市	印旛郡市	松戸・市原 印旛郡市・流山	印旛郡市	柏・印旛郡・松戸・千葉	船橋・松戸
	柔道		千　葉	船　橋	千　葉	千　葉	市　川	船　橋
	剣道		木更津	館　山	浦　安	千　葉	市　川	勝　浦
	ソフトテニス		山武郡市	松　戸	山武郡市	千　葉	山武郡・松戸・市川・千葉	松　戸
	バドミントン		市　川	松　戸	野　田	千　葉	野　田	野　田
	サッカー		市　原	市　原	船　橋	千　葉	船橋・市川	船　橋
	ラグビー フットボール		松　戸 市　川	市　川 船　橋	千　葉 松　戸	船　橋 松　戸	浦　安 船　橋	千葉・市川
	バスケットボール		柏	柏	印旛郡市	印旛郡市	市原・千葉	市　原
	ハンドボール		市　川	市　川	市　川	市　川	習志野	市　川
	ボクシング		市　原	習志野	市　原	習志野	野　田	習志野
	フェンシング		船　橋	船　橋	船　橋	船　橋	船　橋	船　橋
	レスリング		野　田	印旛郡市	野　田	千　葉	千　葉	野　田
	空手道		浦　安	船　橋	市　川	浦　安	習志野	浦　安
	ライフル射撃		八千代	千　葉	印旛郡市	茂　原	印旛郡市	千　葉
	銃剣道		船　橋	松　戸	船　橋	船　橋	船　橋	船　橋
	自転車		千　葉	千　葉	千　葉	千　葉	千　葉	松　戸
	山岳		船　橋	船　橋	船　橋	印旛郡市	千　葉	印旛郡市
	ホッケー		木更津	木更津	いすみ	いすみ		山武郡市
	ウエイトリフティング		八千代	八千代	八千代	八千代	八千代	八千代
	アーチェリー		流　山	浦　安	浦　安	市　川	松　戸	市　川
	ゴルフ		山武郡市	千　葉	千　葉	千　葉	浦　安	柏
	ボウリング		木更津	松　戸	習志野	松　戸	市　川	木更津
	馬術		＝中止＝	印旛郡市	印旛郡市	山武郡市	印旛郡市	山武郡市
	カヌー		印旛郡市	松　戸	香　取	松　戸	浦　安	浦　安

競 技 別 成 績（女子）

性別	競技	開催年度	19	20	23	24	25	26
		回　数	59	60	61	62	63	64
女子	スキー		柏	柏	柏	柏	柏	柏
	スケート		松　戸	松　戸	千　葉 松　戸	順位なし	柏	千　葉
	水泳		柏	千　葉	千　葉	千　葉	千　葉	千　葉
	ヨット		鴨　川	南房総市 安房郡	鴨　川	南房総市 安房郡	鴨　川	千　葉
	ボート		香取市	香取市・香取郡	香取市	いすみ	いすみ	香取郡
	陸上競技		千　葉	印旛郡市	印旛郡市	印旛郡市	千　葉	船　橋
	バレーボール		船　橋	茂　原	船　橋	船　橋	船　橋	船　橋
	体操		市　川	千　葉	千　葉	市　川	市　川	千　葉
	テニス		男女混合	男女混合	男女混合	男女混合	男女混合	男女混合
	卓球		印旛郡市	船　橋	印旛郡市	船　橋	柏	船　橋
	ソフトボール		松戸・船橋 市原・印旛郡市	松　戸	千葉・市川 八千代・市原	松　戸	千葉・松戸 市川・印旛郡市	船橋・習志野
	ソフトテニス		松　戸	松　戸	松　戸	松　戸	柏・野田 松戸・印旛郡市	印旛郡市
	バドミントン		市　原	柏	柏	市　川	柏	野　田
	サッカー		船　橋	千葉市	市　川	市川・船橋		船　橋
	バスケットボール		柏	習志野	船　橋	浦　安	松戸・千葉	市　川
	ハンドボール		市　川	市　川	市　川	市　川	市　川	市　川
	フェンシング		松　戸	松　戸	松　戸	松　戸	松　戸	松　戸
	空手道		茂　原	流　山	柏	市　川	浦　安	浦　安
	山岳		船　橋	船　橋	千　葉	松　戸	松　戸	千　葉
	なぎなた		船　橋	君　津	船　橋	千　葉	千　葉	千　葉
	ボウリング					市　川	松　戸	千　葉
	カヌー		印旛郡市	香取市	香　取	松　戸	松　戸	松　戸

（２）国民体育大会千葉県予選（千葉県民体育大会第二部）の開催

国民体育大会千葉県大会は，国民体育大会に優秀な選手団を派遣するための予選会（選考会）で，本県競技スポーツの最高の技術水準を持つ競技者が熱戦を繰り広げる大会である。

この大会は，国民体育大会開催基準要項の改正に伴い，いわゆる「積み上げ方式」による開かれた国体を目指す新しい国体の在り方が提示され，昭和55年度からブロック大会，県大会の開催が正式に位置づけられたことによる。

ア　過去５か年の概略

平成22年度から平成26年度までの大会の実施状況は下表のとおりである。

年度	会　　期	実施競技	参加者数
２２	平成２２年４月 ～平成２３年１月	正式競技　４０	８，５１２
２３	平成２３年４月 ～平成２４年１月	正式競技　４０	１０，３１０
２４	平成２４年４月 ～平成２５年１月	正式競技　４０	１１，３４２
２５	平成２５年４月 ～平成２６年１月	正式競技　４０	２５，５５２
２６	平成２６年４月 ～平成２７年１月	正式競技　４０	２６，５４４

イ　国民体育大会参加者傷害補償制度

日本体育協会及び都道府県体育協会が，国民体育大会の参加者の傷害事故に備えるために制定したもので，都道府県大会以上の国体参加者の傷害事故に対して，参加者の相互扶助により，補償しようとするもので，昭和57年度大会から，国体千葉県大会の参加者に協力を呼びかけている。平成21年度からは，県予選を対象外とし，ブロック大会・本大会のみが対象となった。期間中の事故については，この制度の補償対象として補償金の給付がある。

ウ　平成26年度大会の概要

平成26年度大会は，40競技に約10,000人の選手・監督・役員の参加を得て開催の予定である。なお、競技会場及び日程は（公財）千葉県体育協会ホームページで公開している。

（３）国内スポーツ大会等の共催・後援

各種スポーツ大会等の一層の充実を図り，競技スポーツの発展に資するため，競技団体等が主催する大会等に対し，申請に応じて共催及び後援をしている。過去6年間に共催・後援した大会等は下表のとおりである。

千葉県教育委員会共催・後援事業

年度	20	21	22	23	24	25	26
共催事業	3件	2件	7件	6件	3件	3件	4件
後援事業	93件	112件	96件	95件	95件	95件	99件
補助金等（負担金・補助金）交付事業	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

３　スポーツ大会への派遣

（１）国民体育大会への選手団の派遣

国民体育大会は，広く国民の間にスポーツを普及し，国民の体力向上を図るとともに，地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するため，昭和21年に京阪神地方で初めて開催され，その後，各県持ち回りで毎年開催されている。昭和63年第43回大会（冬季－群馬・岩手，夏・秋季－京都）から２巡目がスタートし，本年（冬季大会－栃木・山形，本大会－長崎）で69回目を迎える。現在では選手，監督，大会役員などの参加数も４万人を超え，国内最大のスポーツの祭典となっている。

第１回大会から第69回大会までに延べ36,524名の選手団を派遣している。第70回大会はすでに冬季大会が終了し，56名の選手団を派遣した。本大会には，各競技の精鋭を下表の日程で派遣する予定である。

第69回国民体育大会への千葉県選手団の派遣

季別		期日	会場	参加人員又は実施競技
冬季大会	スケート	26年 1月28日 ～ 2月1日	栃木県日光市	本部12・監督4・選手10計26名
	スキー	26年 2月21日 ～ 2月24日	山形県蔵王市	本部9・監督2・選手23 計34名
本大会		26年10月12日～10月22日	長崎県長崎市他	正式競技 37競技 公開競技 2競技

国民体育大会の年次別派遣人員と競技成績

回数	夏・秋季大会開催会場	派遣数	天皇杯	皇后杯	回数	開催会場	派遣数	天皇杯	皇后杯
1	京都・大阪・滋賀・奈良・兵庫	62			36	滋賀	580	7	5
2	石川・滋賀	248			37	島根	639	7	6
3	福岡	278	36	29	38	群馬	629	5	9
4	東京・神奈川・千葉・山梨・埼玉	279	16	25	39	奈良・兵庫	629	5	10
5	愛知・三重	324	16	23	40	鳥取	581	8	13
6	広島・山口・鳥取	343	11	15	41	山梨	666	9	9
7	福島・宮城・山形・栃木	427	14	27	42	沖縄	592	20	18
8	愛媛・香川・徳島・高知	425	13	29	43	京都	585	11	10
9	北海道・奈良	294	19	18	44	北海道	629	10	11
10	神奈川	322	39	39	45	福岡	628	10	11
11	兵庫	264	21	28	46	石川	658	9	12
12	静岡	311	21	42	47	山形	609	13	16
13	富山	292	25	32	48	香川・徳島	663	10	15
14	東京・埼玉	347	24	41	49	愛知	655	11	12
15	熊本	317	24	21	50	福島	540	10	15
16	秋田・宮城・福島	309	17	21	51	広島	633	12	15
17	岡山	387	22	33	52	大阪	645	13	15
18	山口	374	28	24	53	神奈川	667	9	10
19	新潟	369	21	28	54	熊本	613	12	17
20	岐阜	409	12	30	55	富山	623	13	16
21	大分	382	22	22	56	宮城	654	13	15
22	埼玉	424	32	23	57	高知	653	12	9
23	福井	440	32	23	58	静岡	599	15	11
24	長崎	416	27	33	59	埼玉	752	10	11
25	岩手・青森	495	7	25	60	岡山	678	12	11
26	和歌山	475	19	30	61	兵庫	731	9	10
27	鹿児島・熊本	504	12	13	62	秋田	631	8	10
28	千葉	965	1	2	63	大分	562	6	9
29	茨城	558	8	8	64	新潟	553	6	5
30	三重	594	13	13	65	千葉	962	1	1
31	佐賀	565	20	17	66	山口	611	7	6
32	青森	573	9	6	67	岐阜	529	7	7
33	長野	508	16	13	68	東京	648	7	5
34	宮崎	605	8	6	69	長崎	502	10	6
35	栃木・千葉・埼玉	626	9	5	70				

注）天皇杯・皇后杯は順位

（２）国民体育大会関東ブロック大会への選手団の派遣

関東ブロック大会は国民体育大会の関東地区予選として昭和55年神奈川県で初めて開催され，その後関東各都県持ち回りで毎年開催されている。

それ以前は，各競技ごとに予選を実施していたが，総合的に開催されることによって，各都県の親善と友好をより一層深めるとともに，関東地区のスポーツの振興に大きく貢献している。

第70回大会は、冬季大会アイスホッケー競技会がすでに終了し，本県は23名の選手団を派遣した。本大会に係る予選会は8月21日～23日を中心会期として埼玉県で開催される。

４　千葉県競技力向上推進本部事業

「2005千葉きらめき総体」や平成22年開催の「ゆめ半島千葉国体」において，本県選手が優秀な成績をおさめることができるよう計画的・継続的に選手を育成・強化するとともに，この両大会の開催を契機に本県の競技力が一層向上し，併せてスポーツを通じた「ひとづくり」,「地域づくり」を展開する中核的組織として平成14年3月19日（規約の施行）に千葉県競技力向上推進本部を設立した。

推進本部は、関係団体と連携を図りながら諸事業を展開し、その結果、「ゆめ半島千葉国体」では県史上初の完全優勝を達成、本県の競技力の高さを全国に示すとともに、日本一の感動を選手と県民が共有し、スポーツへの参画気運を高めるなど、本県スポーツの発展に大きく寄与している。

今後も、本県の競技力の恒常的な維持・発展を目指し、推進本部を中心として強化事業を展開していく。

（１）本部委員構成

本 部 長　　諸橋省明副知事

副本部長　　青木克己県体育協会理事，内藤敏也県教育長

本部委員　　県議会，スポーツ団体，学校関係，企業団体，市町村教育長
学識経験者，整形外科医，臨床心理士，栄養士，スポーツ指導者　（合計20名）

（２）実施事業

①国体強化

基本施策・事業名	内　　容
Ⅰ選手の育成・強化,指導者の養成確保 （１）国体選手強化・サポート事業	国体本大会・国体冬季大会の出場選手強化 ・選手強化支援　強化練習　合宿　県外遠征等 ・国体選手能力活用 ・コーチ、ドクター、トレーナー派遣 ・強化コーチ養成支援
（２）ちばジュニア強化事業	ジュニア年代（小学生～高校生）の発掘・育成・強化 ・選手強化支援 ①ジュニア選手・拠点強化 ②強化型別支援 ③国体選手能力活用 ・競技会開催支援 ・ジュニアコーチ育成支援 ・強化選手、指導者指定
Ⅱ競技力向上のための環境整備 （３）競技用具等の整備事業	強化練習等に必要な競技用具等の整備
（４）トップチーム支援事業	各競技の主軸となる企業運動部、民間スポーツクラブ、大学等を指定し、強化活動を支援
Ⅲスポーツ医・科学の積極的な活用 （５）スポーツ選手医事・科学サポート事業	競技の特性や競技者の実情に応じた医・科学サポート ①運動能力測定　測定・相談、障害相談、栄養状況調査・相談、ドーピング防止研修会等 ②トレーナー派遣　選手強化及び国民体育大会へのトレーナー派遣 ③メディカルチェック 国体選手の健康診断
Ⅳ調査・研究 （６）国体選手選考・強化活動調査事業	競技力の現状把握、国体選手の選考等 競技力向上委員会開催（年10回）、強化活動視察（4月～各地）、競技別ヒアリング、先催県等他県調査・研究 戦力分析会議（年5回）

②オリンピック・パラリンピック強化

「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」

＜オリンピック部分＞

基礎強化支援

○国際大会の視察　○競技用具の整備　○選手・チームの招聘　○外部指導者の起用

特別強化支援

○海外遠征　○国際大会の視察　○国内遠征　○強化合宿　○選手・チームの招聘

○競技用具の整備　○外部指導者の活用　○医・科学サポート

＜パラリンピック部分＞

基礎強化支援

○国際大会の視察　○競技用具の整備　○選手・チームの招聘　○外部指導者の起用

特別強化支援

○海外遠征　○国際大会の視察　○国内遠征　○強化合宿　○選手・チームの招聘

○競技用具の整備　○外部指導者の活用　○医・科学サポート

掘り起こし

○競技団体が企画運営する競技体験会

（３）国民体育大会対策委員会総会の開催

選手強化を推進する上で，指導者がそれぞれ研修を深め，資質の向上を図ることは重要なことであることから，県体育協会競技力向上委員会は，指導者としての専門性や総合的な知識を得るため各界の有識者を招請し，国民体育大会対策委員会総会（40競技団体のヘッドコーチ，種別監督等約 200人）において講演会等を開催し研修に努めており，平成15年度からは，千葉県競技力推進本部の主催により行っている。

過去の講演会・講演者一覧

年度	役　職　等	氏　　名	演　　題
５５年	日本体育協会競技力向上委員会	神山　信義	
５６年	日本サッカー協会専務理事	岡野俊一郎	「競技スポーツの強化方策」
５７年	順天堂大学教授	太田　哲男	「精神力のトレーニング」
５８年	日本バレーボール協会専務理事	松平　康隆	「負けてたまるか！！」
５９年	サッカー　ヤンマーディーゼル監督	釜本　邦茂	「我がサッカー人生」
６０年	日本体操協会女子ナショナルチーム強化部長	塚原　光男	「ジュニア強化対策と競技力向上」
６１年	東海大学教授	佐藤　宣践	「スポーツにおける指導者の役割」
６２年	元早稲田大学教授ＪＯＣ委員	大西鉄之祐	「勝チームを作るために」
６３年	日本体育協会公認スポーツドクター 世界射撃連盟医事委員	霜　礼次郎	「チャンピオンへの道」
元年	国際武道大学助教授 全日本柔道連盟国際委員会委員 関東学生柔道連盟副理事長	柏崎　克彦	「『私と柔道』勝たせる指導者とは・・」
２年	日本大学教授	早田　卓次	「体育・スポーツ指導者の役割」
３年	千葉県軟式庭球連盟会長	岡田　脩	「競技力向上と組織強化について」
４年	ソウルオリンピック金メダリスト	小林　孝至	「金メダルへの道」
５年	スポーツ医・科学研究所常務理事	松井　秀治	「トップアスリート育成のために」
６年	ＮＨＫアナウンサー	刈屋富士雄	「スポーツ放送を通じての指導者たち」
７年	リクルートランニングクラブ監督	小出　義雄	「限りない可能性と勝利について」

8年	フジテレビアナウンサー	松倉　悦郎	「価遇」テレビ・人・ふれ愛
9年	バルセロナオリンピック銀メダリスト アトランタオリンピック銅メダリスト	有森　裕子	「夢を力に」
12年	千葉県サッカー協会理事長 千葉県サッカー協会技術委員	梶原由紀夫 今泉　守正	「サッカー王国への道」 〃
13年	（財）千葉県体育協会副会長	市川恭一郎	「マーベリック（異端）について」
14年	セイコーインスツルメンツ（株）相談役	伊藤　　潔	「リーダーの条件」
15年	三井住友海上火災女子柔道部監督	柳沢　　久	「世界チャンピオンをめざして・・・勝つことへのこだわり」
16年	卓球指導者	古川　敏明	「優勝へのヒント」
17年	順天堂大学教授	加納　　實	「金メダルへの道～アテネオリンピックを振り返って」
18年	千葉明徳高等学校長	上野　正裕	「2005千葉きらめき総体」から「ゆめ半島千葉国体へ」
19年	（財）全日本柔道連盟女子強化委員	山口　　香	「意志あれば道あり」
20年	(財) 日本ラグビーフットボール協会名誉会長	日比野　弘	「勝つためのコーチング」
21年	NPO法人日本ランナーズ理事長	金　　哲彦	「日本長距離界の再生」
22年	参議院議員	橋本　聖子	「スポーツを通じた人材育成」
23年	県立安房高等学校教諭	所　　正孝	「高校三冠への道程」
24年	（株）日立柏レイソル代表取締役社長	御手洗尚樹	「J2からJ1チャンピオンへ」
25年	北野建設ゼネラルマネジャー	荻原　健司	「スターはつくられた」
26年	日本体育大学助教授	田中　理恵	「オリンピックと私」

（4）国民体育大会入賞者表彰

千葉県競技力向上推進本部表彰規程により，国体入賞者の本県スポーツ界への多大な功績を認め，選手・監督及び団体を表彰している。平成24年度は競技別天皇杯又は皇后杯に入賞した競技団体に賞状，種目別３位以内入賞者にメダルを授与した。

※昭和56年度～平成14年度（財）千葉県体育協会で表彰

第６９回国民体育大会千葉県選手団入賞者数

季別	No.	競技名	１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位	入賞選手総数	競技別入賞 天皇杯	皇后杯
冬季	1	スケート		1						1	2		
	2	アイスホッケー									0		
	3	スキー									0		
		［小　　計］		1						1	2		
本大	1	陸上	2	1	1	1	2		3	2	１２		
	2	水泳	１２	5	3	5	9	8	2	3	４７	⑥	④
	3	サッカー											
	4	テニス			2				2		4	⑤	⑤
	5	ボート											
	6	ホッケー											
	7	ボクシング			1		4				5		
	8	バレーボール					１２				１２		
	9	体操	5	5	5			5			２０	③	④
	10	バスケットボール		１３			１２				２５	④	②
	11	レスリング	3	1							4		
	12	セーリング		1	2	2	1			1	7	⑤	⑧
	13	ウエイトリフティング											
	14	ハンドボール					２４				２４		
	15	自転車			1						1		
	16	ソフトテニス	6				6				１２	①	①
	17	卓球											
	18	軟式野球					１５				１５	⑤	

	19	相撲											
	20	馬術	1	2	2	1	1	1			8	④	②
	21	フェンシング			3				3		6		⑤
	22	柔道	3				5				8	⑦	②
会	23	ソフトボール											
	24	バドミントン				3	3				6	⑧	⑦
	25	弓道						3		3	6		
	26	ライフル射撃	1		1	2	1	2		1	8	⑥	
	27	剣道					5				5		
	28	ラグビーフットボール						１０			１０		
	29	山岳		6		4		2			１２	①	①
	30	カヌー		1		1			3	1	6		
	31	アーチェリー											
	32	空手道					1				1		
	33	銃剣道											
	34	クレー射撃		3							3	③	
	35	なぎなた											
	36	ボウリング	1		1	2					4		⑥
	37	ゴルフ											
	［小　　計］		３４	３８	２２	２１	101	３１	１３	１１	２７１		
合　　計			３４	３９	２２	２１	101	３１	１２	１２	２７３		

５　スポーツ団体の育成

公益財団法人千葉県体育協会（以下、県体育協会という）及びその加盟団体は，県内スポーツの普及・育成と競技力向上の２大目標に向かって事業の推進に当たっている。

県体育協会は県民体育大会，国体千葉県大会など競技会の開催，各種講習会の開催，指導者養成等の各種講習会の開催，スポーツ少年団活動，スポーツ医事・科学の研究など，本県スポーツを総合的・計画的に推進している。このため，県体育協会に対し助成を行い，こうした諸事業の自主的な活動の推進と円滑な運営を図っている。

（１）組織の確立

県民の健康体力に対する関心が高まるにつれて，自らスポーツを実践しようとする人々が増加してきているため，多くの競技種目において，各年齢層の多様なニーズに対応する適切な指導，組織整備の確立が求められている。

このため，県体育協会をはじめ各競技団体など県を統括する諸団体事務局と密接な連携が保たれるような対策が必要である。「ゆめ半島千葉国体」開催を契機に，一層の連携・協力を図り支援及び協力体制の確立を進めていく必要がある。

（２）スポーツ指導者の育成

公益財団法人日本体育協会は，都道府県体育協会と認定競技団体の推薦により，競技種目ごとに専門的知識・技能を有する指導者と競技種目を横断する知識・技能を有する指導者の資格認定及び養成事業を行っている。本県の競技種目ごとに専門的知識・技能を有する指導者は，5,665 名（旧資格を含む）となっている（平成 26　年 10 月登録分）。競技人口の増加，参加層の拡大の時代にあって，スポーツ指導者の正しいモラルと専門性の高い知識は一層必要とされるものであり，このようなスポーツ指導者資格取得を推奨するとともに，登録指導者の活躍の場も一層広げられるよう検討する必要がある。

（参考：公認スポーツ指導者制度オフィシャルブック 2015）

公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者

ア　競技別指導者（指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）4,619 人
イ　スポーツトレーナー（旧資格）・・・・・ 8 人
ウ　スポーツプログラマー・・・・・・・・・312 人
エ　フィットネストレーナー・・・・・・・・38 人
オ　ジュニアスポーツ指導員・・・・・・・・220 人
カ　アスレティックトレーナー・・・・・・・150 人
キ　スポーツドクター・・・・・・・・・・・157 人
ク　スポーツ栄養士・・・・・・・・・・・・4 人
ケ　アシスタントマネジャー・・・・・・・・148 人
コ　クラブマネージャー・・・・・・・・・・9 人

千葉県の公認スポーツ指導者登録状況

（2014年10月登録分）　（人）

	資格 / 競技	指導員			コーチ			教師			合計
		指導員	上級指導員	小計	コーチ	上級コーチ	小計	教師	上級教師	小計	
1	陸上競技	36	3	39	37	13	50	－	－	－	89
2	水泳	234	15	249	99	22	121	104	14	118	488
3	サッカー	1,352	―	1,352	179	75	254	－	－	－	1,606
4	スキー	7	68	75	1	1	2	1	3	4	81
5	テニス	66	59	125	8	7	15	27	11	38	178
6	ボート	5	0	5	8	2	10	－	－	－	15
7	ホッケー	2	0	2	11	3	14	－	－	－	16
8	ボクシング	0	―	0	6	0	6	－	－	－	6
9	バレーボール	213	9	222	22	10	32	－	－	－	254
10	体操	9	0	9	30	6	36	－	－	－	45
11	バスケットボール	150	0	150	19	6	25	－	－	－	175
12	スケート	6	―	6	2	0	2	5	－	5	13
13	レスリング	9	0	9	1	1	2	－	－	－	11
14	セーリング	26	4	30	0	3	3	－	－	－	33
15	ウエイトリフティング	2	－	2	3	2	5	－	－	－	7
16	ハンドボール	21	0	21	14	5	19	－	－	－	40
17	自転車	5	0	5	15	1	16	－	－	－	21
18	ソフトテニス	63	8	71	3	2	5	－	－	－	76
19	卓球	99	42	141	18	2	20	－	－	－	161
20	軟式野球	37	－	37	2	0	2	－	－	－	39
21	相撲	3	0	3	－	－	－	－	－	－	3
22	馬術	1	－	1	24	0	24	－	－	－	25
23	柔道	8	－	8	14	1	15	－	－	－	23
24	ソフトボール	168	23	191	16	4	20	－	－	－	211
25	フェンシング	9	－	9	5	0	5	－	－	－	14
26	バドミントン	40	35	75	3	2	5	－	－	－	80
27	弓道	155	0	155	3	－	3	－	－	－	158
28	ライフル射撃	0	0	0	5	3	8	－	－	－	8
29	剣道	43	23	66	－	－	－	－	－	－	66
30	近代五種	―	―	―	0	0	0	－	－	－	0
31	ラグビーフットボール	54	2	56	36	7	43	－	－	－	99
32	山岳	25	19	44	1	2	3	－	－	－	47
33	カヌー	10	0	10	11	0	11	－	－	－	21
34	アーチェリー	21	0	21	0	－	0	－	－	－	21
35	空手道	68	27	95	21	11	32	－	－	－	127
36	アイスホッケー	2	－	2	0	0	0	－	－	－	2
37	銃剣道	11	3	14	0	－	0	－	－	－	14
38	クレー射撃	8	－	8	－	0	0	－	－	－	8
39	なぎなた	82	13	95	9	1	10	－	－	－	105
40	ボウリング	21	0	21	5	0	5	0	0	0	26
41	綱引	2	－	2	－	－	－	－	－	－	2
42	ゲートボール	39	0	39	－	－	－	－	－	－	39
43	ゴルフ	6	－	6	－	－	－	－	－	－	6
44	カーリング	10	0	10	0	0	0	－	－	－	10
45	パワーリフティング	4	－	4	－	－	－	－	－	－	4
46	グラウンド・ゴルフ	4	－	4	－	－	－	－	－	－	4
47	トライアスロン	13	－	13	－	－	－	－	－	－	13
48	バウンドテニス	5	0	5	－	－	－	－	－	－	5
49	エアロビック	21	2	23	0	0	0	3	0	3	26
50	プロゴルフ	－	－	－	－	－	－	5	7	12	12
51	プロテニス	－	－	－	－	－	－	15	15	30	30
52	職業スキー	－	－	－	－	－	－	0	5	5	5
53	スクーバ・ダイビング	22	8	30	－	－	－	－	－	－	30
54	ダンススポーツ	4	－	4	1	－	1	－	－	－	5
55	アメリカンフットボール	16	－	16	－	－	－	－	－	－	16
56	バイアスロン	0	－	0	0	0	0	－	－	－	0
57	その他	0	－	0	－	－	－	－	－	－	0
	合計	3,217	363	3,580	632	192	824	160	55	215	4,619

注：「－」は現在養成を行っていない資格・競技。

※競技別資格の登録者数を競技・資格別にまとめたものである。この表では同一資格で異なる競技を有する場合にはそれぞれの競技に1人分を計上した。